

令和7年度事業報告書（よなご エリア）

1 令和7年度総括（成果、反省等）

令和7年度は、施設・保育・在宅の各部署においてユマニチュード研修や実践が進み、いずれも実績値を達成した。特に、利用者との関係性を深める有効な手法であることが再確認され、次年度は「実践の質向上」と「全体での定着」を重点目標として取り組む必要が示された。また、互惠互助セルフチェックは全事業所で実施され、提出率100%を達成し、不適切ケアの減少傾向も確認。生活習慣病予防健診は受診者が減少したため、健康意識向上と受診促進の体制整備が課題である。ICT活用ではnomanやBizmee、ケアプラン連携システム等の導入により残業削減やペーパーレス化が進んだが、活用のばらつきが残る。グローバル人財は21名が在籍し、エルダー制度等を活用しながら育成が進んでいる。さらに、SNSを活用した情報発信は250件に達し、家族から高い評価を得た一方、ボランティア参加、受け入れ拡大が課題として残った。これらの成果と課題を踏まえ、次年度は実践の定着と業務改善を通じた生産性向上を図る。

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

1) アザレアコート 20周年開苑式開催報告

2025年4月26日、開苑20周年記念アザレアまつりを開催し、多数の地域住民およびご家族の来場を得て盛況のうちに終了した。日野高校生による荒神神楽、キッズタウンかみごとう園児の発表が会場の活気向上に寄与した。屋台では多様な飲食物が提供され好評を得た。今後も地域との連携を継続し、ご利用者が安心して生活できる環境整備に取り組む方針である。

2) グローバル人財交流会の実施状況

特定技能生に対する学習支援研修の実施後、年間4回のグローバル人財交流会を開催している。日本の手話や着物の歴史の学習、地域団体との太鼓演奏体験などを通じ、日本文化理解と地域住民との交流促進を図ってきた。異文化理解を深めることで日本での生活適応を支援し、地域の一員としての意識醸成につなげることを目的としており、今後も継続的に実施する方針である。

3) 河崎地区行方不明高齢者捜索訓練への参加

令和7年5月16日、河崎地区の行方不明高齢者捜索訓練に参加した。住民団体への聞き取りにより、人材不足や高齢化により主体的な運営が困難である状況が判明した。一方で訓練継続の意向は共有されていたため、地区社協の年間計画に組み込み、関係団体が協働して準備する方式へ変更した。地域活動の負担軽減と仕組みづくりが必要であり、包括支援センターが調整役として重要な役割を担うことを確認した。

4) 住吉地区青色防犯パトロールへの参加状況

住吉地区青色防犯パトロール協議会では、小学生の下校時を中心に防犯活動を実施している。よなご幸朋苑および後藤ヶ丘地域包括支援センターの職員は、令和7年度より2人1組で年6回の巡回に

参加している。参加者は米子警察署の講習を受講し、パトロール実施者証の交付を受け活動している。地域での見守りや声かけを通じ、不審者抑止と安全・安心なまちづくりに寄与する姿勢を示している。

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

1) コミュニティの実践

施設・保育・在宅の各部署でコミュニティ研修や実践が進み、いずれも実績値を達成した。利用者との関係性を深める有効性が確認され、次年度は実践の質向上と全体での定着を目指す。保育では尊重する関わりの重要性を再認識し、在宅でも研修や話し合いが継続されており、各部署での実践定着が次年度の課題となる。

2) 互恵互助セルフチェック(SC)を行い「互恵互助」の理念の実践

全部署にて実施。提出率は100%となった。チェック上では不適切と思われるケアの件数は減少傾向を示した。

3) 生活習慣病予防

生活習慣病予防健診受診者 R7年度 57名、(R6年度 63名)

声掛けを実施していたが、今年度は昨年度に比べて受診者は減少。健康への意識を高め、健康診断受診向上のための体制づくりについて次年度に向け整備。

4) ICT機器の活用

ICT機器の活用と超勤時間削減に向け、令和7年7月に議事録作成ソフト「noman」を導入し、よなごエリアでは7月～翌3月の平均使用時間が112時間となった。残業時間は前年比96%となり418時間減少、ペーパーレス化も75%まで進んだ。BizmeeやnomanなどAI機器の利用は広がりつつあるが、活用の定着が課題である。在宅系ではケアプラン連動システムによりペーパーレス化が進む一方、未導入の居宅では紙ベースが残る。施設系では眠りスキャン等の活用を継続し、タイムスタディも実施。保育ではコドモンアプリの活用を継続しており、今後は業務改善を通じた生産性向上が期待される。

5) グローバル人材の育成体制の構築

よなごエリアグローバル人材の在籍者21名。13名が多様なシフト（24時間勤務）で勤務している。所属別よなご特養10名、きんかい特養2名、アザレア特定4名、GHかみごとう4名、GHはたがさき1名。令和7年10月採用者8名は各事業所で早・日・遅番業務ができています。各事業所がエルダー制度、ケア確認表を活用しそれぞれの職員の進捗状況を確認しながら指導にあたりしている。

6) 事業活動計算書等の見方、各項目の理解

年度中8回開催。エリア調整会議のメンバーを中心に行う。貸借対照表・事業活動計算書・資金収支計算書の見方と役割について解説。事業活動計算書にある減価償却や国庫補助金特別積

立金の役割などの説明を行う。

7) 施設からの情報発信とボランティア参加

令和8年度からエリア全体で新たな情報発信の手段として SNS の活用を進めている。令和7年度の発信は250件近くとなりご家族からもタイムリーでご利用者の姿や施設の様子が見えることで好評をいただいている。ボランティア活動については延べ100人を超えている。参加については複数回参加している職員がいることもあり未参加の職員も参加できる環境や情報の発信が課題。

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第1位）

事業所名	定員(人)	令和7年度(%)	令和6年度(%)	令和5年度(%)
よなご特養	74	97.6	98.2	97.7
よなごショートステイ	10	92.8	92.8	98.5
きんかい特養	30	97.1	97.4	96.5
きんかいショートステイ	6	85.0	88.4	90.0
ケアハウス	60	93.4	98.6	90.8
グループホームかみごとう	27	97.1	98.0	79.1
グループホームはたがさき	18	98.1	99.3	96.3
アザレア特定	40	92.8	93.5	98.5
アザレア賃貸	112室	94.8	94.0	99.2
生活支援ハウス	20	90.2	89.9	68
デイハウスよねはら	25	88.0	91.6	71.4

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	○長寿を祝う集い ○米川沿い清掃 ○骨密度測定会 ○ピアノとフルーツコンサート ○入居者懇談会 ○クリスマス会 ○もちつき ○秋祭り
BCP等訓練実施状況	感染症 BCP・自然災害 BCP 全事業所で作成済み BCP 訓練(自然災害、感染症 2回/年)実施済
エリア内研修状況	○エルダー・新人発表会 ○安全衛生 ○食中毒 ○認知症 ○法令順守 ○事故発生・緊急時の対応 ○身体拘束と虐待 ○感染症 ○リスクマネジメント ○ユニットケア ○看取り ○介護基準(排泄・リスク・褥瘡・骨折と表皮剥離) ○高齢者の健康管理と疾患 ○コミュニケーション技法 ○接遇について ○災害BCP ○感染症BCP
エリア内会議、委員会活動	○苦情解決第三者委員 ○ふれあいの橋の会 ○エリア内調整会 ○地域で一緒に暮らそう会

	<p>○虐待防止委員会 ○リスクマネジメント委員会 ○看護師会 ○安全衛生委員会 ○ノーリフティング推進委員会</p>
委員会活動等の 成果・実績・反省	<p>○リスクマネジメント:エリア調整会議で骨折・服薬関連・ご意見・車両事故報告を共有。エリアリスク委員会では報告書の原因分析・再発防止策について検討。また法人リスク委員会で作成した服薬マニュアルの動画を全事業所で周知するよう発信し、配薬時の声出し・指さし確認の定着化に向け呼びかけた。重大事故が発生した場合は速やかな水平展開により同一事故の予防に努めた。</p> <p>○ノーリフティング推進: 基準書に沿って手技チェックを実施。また福祉用具に係る事故の周知を行い再発防止に努めた。</p> <p>○看護師会: 包括的ケアの取り組みとしてろうあ仲間サロン会にてまちの保健室を実施。服薬事故の予防を目標に掲げ取り組むも事故件数の減少に結びつかず。リスク委員と連携し、誤薬時の原因分析と検証を実施していく。感染症への引き続き対応のため BCP の見直し、研修会の開催を実施。</p>

6 人財状況

外部研修等講師派遣 実績	<p>○鳥取大学医学部保健学科老年看護学:高岡久雄 ○介護福祉士実務者研修講師:24名 ○介護実習科講師:12名 ○福祉職員キャリアパス対応生涯研修:豊田慶子・福井幸枝 ○鳥取県母子寡婦福祉連合会家庭生活支援員:講師:長谷川めぐみ ○北高看護学科講師:安達 淳 ○安倍、河崎、御建、芝谷、加茂、等のサロンにて介護予防体操講師:炭山理恵</p>
外部役職就任状況	<p>○鳥取大学医学部臨床准教授:高岡久雄 ○鳥取大学医学部臨床講師:野坂美保 ○鳥取看護大学臨床実習指導講師:堀田幸恵、藤岡麻美 ○介護認定審査会審査委員: 戸田悦子、上田紀行、野坂美保、坂本佳津子 ○介護福祉士実務者研修教務主任:野坂美保 ○鳥取県リハビリテーション専門職連絡協議会(POST) ○介護福祉士会代議員:野坂美保 ○鳥取県災害派遣福祉チーム登録者:本庄研・御古達也・吉本祥太・上田紀行・平野敦・内藤将輝</p>
外部表彰受賞状況	<p>○鳥取県社会福祉協議会会長表彰: 足立哲美・万波美奈江・池信喜美子・岩田千恵子・秋鹿真澄・逸見哲子</p>

	<p>○米子市社会福祉協議会会長表彰: 矢野真澄・榎野幸教・三角智加子・小村のぞみ・越河なぎさ・大瀧弘晃・山本英子・福本みどり・濱岡逸伯・往西静香・原田真由美</p> <p>○米子商工会議所優良従業員表彰: 安達淳・山根かおり・長谷川めぐみ・先灘典子</p> <p>○第 18 回鳥取県福祉研究学会 奨励賞 中島美由紀</p> <p>○厚生労働大臣表彰: 野坂美保</p>
--	--

7 地域貢献実績（保育園含む）

<p>実習受け入れ実績 延人数 423 人</p>	<p>ユニットリーダー実施施設研修・鳥取大学地域医療体験実習・鳥取大学医学部 早期体験・ボランティア実習・YMCA 米子医療専門学校・鳥取看護大学・境港総合技術高校・米子医療センター附属看護学校・YMCA 米子医療専門学校・美作大学・大阪健康福祉短期大学・鳥取環境大学・米子北高看護科・障害者実習 生活支援センターしゅーと・実務者研修</p>
<p>ボランティア受け入れ 実績 延人数 215 人</p>	<p>個人(行事補助、楽器演奏、生け花教室、環境整備、体操指導、傾聴、ダンス披露、ハンドマッサージ、混声合唱団、フラダンス他)</p> <p>こうほうえん職員大漁太鼓・日野高校・米子南高校 県社協ボランティア体験事業 (米子西高校・米子東高校・米子北斗高校・米子南高校・米子北高校・福生中学校)・明治安田生命保険会社</p>
<p>見学受け入れ実績 実人数 182 人</p>	<p>明治大学学生・鳥取県国際観光課中国訪問団・兵庫県信温泉町民生児童委員・韓国康津郡国民福祉課他</p>
<p>地域交流活動実績 1 実施回数 4 回 実人数 45 人 延人数 108 人</p>	<p>(事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業)</p> <p>アザレア祭り・保育園との交流事業・餅つき・焼きいも大会</p>
<p>地域交流活動実績 2 実施回数 1 回 実人数 2 人 延人数 2 人</p>	<p>(地域の交流事業に利用者と共に参加したもの)</p> <p>アザレア祭りに他施設から参加</p>
<p>ボランティア・環境活動等の実参加者数</p>	<p>(ボランティア・環境活動等に 1 回でも参加した職員数)</p> <p>30 人 / エリア職員数</p>
<p>ボランティア・環境活動参加実績 1 投入実人数 74 人</p>	<p>(清掃活動・消防団活動・地域防災活動等)</p> <p>米川周辺の除草作業・三柳北自治会一斉清掃・米原3区自治会一斉清掃・中海アダプト・旗ヶ崎 カメ公園除草作業・河崎地区祭り テント搬入作業・三柳北自治会夏のクリーン作戦・トライアスロンボランティア・米原まつり・住吉夏祭り・</p>

ボランティア・環境活動参加実績 2 投入実人数 32 人	(見守り活動・学校活動の手伝い等) 住吉地区青色防犯パトロール・加茂、芝谷、河崎地区のサロン運動指導
地域発信活動実績 (介護、看護の日、イベント開催等)	—
地域発信活動実績 (認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターのみの活動は除く)	—
地域発信活動実績 (講習会、講演会の主催及び参加等、地域包括支援センターのみの活動は除く)	—

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル 3 以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル 3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	22
	レベル 4	事故により、障がいが残った場合	0
	レベル 5	事故が死因となった場合	1
虐待及び身体拘束の状況	(実人員、延日数、簡単な状況) 高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ通報した事案はありませんでした		
感染症の集団発生状況(保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数) 特養きんかい幸朋苑 10 名 報告日 令和 8 年 1 月 5 日 収束日 令和 8 年 1 月 4 日 特養よなご幸朋苑 16 名 報告日 令和 7 年 7 月 28 日 収束日 令和 7 年 8 月 6 日		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	2 件	14 件	0 件